



# 祐介の目

No.146

大田祐介 (福山市議会議員)

メガネを売り出した。安い中国産よりメイドインジャパンをと、独自のアンテナショップ・さばえメガネ館を全国にオープンした。メガネ産業の礎を築いた増永兄弟をモデルにした映画「おしよ

## メガネのまち鯖江

両親が近視の私が三城でメガネを買ったのは小学5年生の時だった。当時はクラスに一人だけで、とても恥ずかしかった覚えがある。大人になって三城から独立した安倍君の店にもよく通った。度入りの偏光サングラス等、面白いメガネを沢山作ったが、彼が事故死してもう20年になる。

先日、福井県鯖江市に視察に行ってきた。鯖江市は国内メガネの9割を製造しているが、画期的なチタンフレーム加工技術を確立してしばらくが販売のピークであり、その後は安い中国産に押され、地場産業は低迷期を迎えた。加工業者は小規模事業者が多く子供には継がせられないと考える人が多かったそうだ。そこで平成22年に市民役条例を制定して、自分たちで自分たちのまちを「つくる」という意識醸成から始まった。徹底的なブランディング戦略が練られ、地域ブランドとして

りん」も公開される。ものづくり、それはこころづくり。彼らが人生を賭けたのはメガネから見える幸せだったのだ。

目の健康に関する意識を高めてもらうために、目育(めいく)も開始した。人間の情報は約80%が目から入り、その大切な目は就学前後の幼児期までにほぼ完成されると言われている。目の成長時期に異常を発見することが子供の将来に繋がるので、3歳児検診でスポットビジョンスクリーナーを使った屈折検査を行っている。この機器は子供が座ったまま数秒で近視、遠視、乱視、不同視、瞳孔不同等を検出することが可能だ。最近では小学生の半数、中学生は8割が近視となり、その原因はスマホに間違いはない。最近の幼児をあやすのにスマホで動画を見せるなど言語道断と感じるし、スマホからは決して「幸せ」は見られないはずだ。近視はメガネで救われるが、スマホの害悪はメガネでは矯正不能だろう。